

日本心理学会 音楽心理学研究会 第5回研究集会～シンポジウム： 「演奏心理学の現在」

主催： 日本心理学会音楽心理学研究会

日時： 2023年2月12日（日）13：00～15：30（予定）（ZOOMによるオンライン開催）

*オンラインのURLや参加申し込みなどの情報は来年1月初めに告知いたします。

開催趣旨：

私たちが聴取により音楽作品に接する際には、演奏という音の再現が必要になる。演奏者の役割を極めて低く評価した兼常清佐（音楽学者、1885—1957）は、ピアニストが500グラムの力でキーを打つのとネコが500グラムの力でキーの上に乗ると同じ音が出るという言葉を残したという（梅本堯夫『音楽心理学』誠信書房、p.317）。しかしこれは正しいとは言えない。なぜなら「音楽は多くの音が有機的に結合してできているので、個々の音の自由度は少なくとも、それらの音が多数結合してできた楽曲全体の表現の自由度は非常に大きい」（同上、p.317）のであり、演奏者が異なれば同じ曲とは思えないほどの違いを生むことさえある。本研究集会では、この「演奏」という複雑で豊かな音楽行動にまつわる心理学的研究についてシンポジウムを開催する。4名の講演者には、演奏音や表現の解析、演奏者の心理と行動の分析、そして演奏技能の習得過程とメタ認知など様々な側面について最新の話題を提供していただく。その後、演奏心理全般に詳しい小川容子先生に指定討論をお願いする。

プログラム：（以下、敬称略）

司会者 生駒 忍（川村学園女子大学）、池上 真平（昭和女子大学）

話題提供1.

正田 悠（ショウダ ハルカ）（立命館大学）

題目：音楽演奏の学際的研究：「これまで」と「これから」

要旨：

演奏心理学の研究では、演奏音の解析や演奏者の反応に関する研究が進められてきた。本発表では、それらの研究を振り返るとともに、これからの演奏研究の発展に向けて、「演奏音」と「演奏者」に関する種々の情報を包括的にアーカイブするプラットフォームの構築について提案する。

話題提供2.

河瀬 諭（カワセ サトシ）（神戸学院大学）

題目：演奏者どうしのコミュニケーション

要旨：

音楽演奏は、演奏者どうしの精緻なコミュニケーションの上に成り立っている。本発表では、合奏におけるコミュニケーションについて、練習での社会的要因、演奏中のタイミング同期、芸術性の工学的応用について、概観する。

話題提供3.

大澤 智恵（オオサワ チエ）（武庫川女子大学）

題目：空間/身体-音を結びつける演奏技能と知覚認知

要旨：

空間的位置/身体動作と音の結びつきは、演奏技能の基礎ともいえる。これらに関連する研究動向を俯瞰したのち、高齢者の認知機能と楽器練習経験に関する京都大学積山薫研究室の研究について、行動課題を中心に紹介しつつ、演奏技能研究の立場からの考察を述べる。

話題提供 4.

吉野 巖 (ヨシノ イワオ) (北海道教育大学)

題目：**楽器練習とメタ認知の研究は今**

要旨：

楽器の熟達には、演奏のモニタリングや練習のプランニングなど、メタ認知が重要な要因であることが指摘されている。本話題提供では、楽器練習に関する内外のメタ認知研究を紹介し、楽器の上達に必要なメタ認知とはどのようなものか考える。

指定討論：小川 容子 (岡山大学)